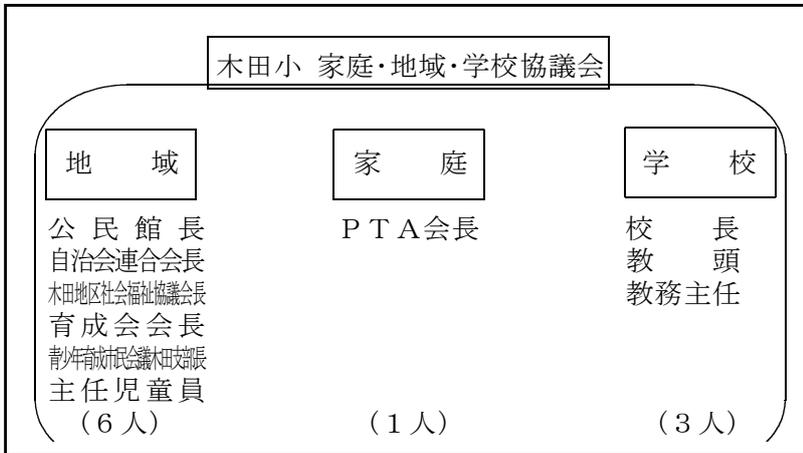


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市木田小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ・開催回数
年2回
- ・開催日程
7月12日、2月20日
- ・協議内容
①家庭・地域・学校の連携
について
②学校関係者評価について

中学校区協議会を1月に実施

※地域コーディネーター3人

- ・福井市木田公民館主事
- ・木田地区子ども会育成連合会会長
- ・青少年育成市民会議木田支部長

(3) 協議会における成果と課題

木田小学校は地域の多大なる協力を得ているが、学校と地域をつなぐための具体的な組織として、この協議会が機能している。また児童の様子について外部からの評価を得ることができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 木田地区の行事や公民館主催の活動に主体的に参画し、地域活動に貢献するとともに地域についての理解を深める。
- 地域活動に参画する際の地域PRを積極的に進め、木田地区の長所を再確認し、ふるさとへの思いや誇りを育む。

(2) 活動の実際

①「木田地区体育大会」への協力

[6年]

- ・体育大会を盛り上げるために、日時や内容を知らせるポスターを作り、学校内に掲示した。

②「木田地区夏まつり」への協力と参加

[5・6年]

- ・まつりのオープニングセレモニーに参加し、「パプリカダンス」を披露する予定で、事前に練習した。しかし、当日はあいにくの雨模様で、希望者のみのダンス披露となった。

③「木田公民館まつり」への協力と参加

[5年]

- ・地区住民に周知するために広報ポスターをかき、公民館主催のコンクールに応募した。



- ・撮影チームを作り、記録写真や動画を残し、地域の行事に参加することの意味を考える資料づくりを行った。

[5・6年]

- ・育成会の方に指導をしてもらい、希望者がフリーマーケットや模擬店を出店した。
- ・集客を図るために、模擬店を紹介する動画を広報担当チームで製作し、校内放送で公開した。
- ・当日、大人が出す店の手伝いや来客の案内・お世話などの仕事のボランティア活動を行った。

④ 三世代交流大会への協力と参加

[6年]

- ・集客を図るために広報ポスターをかき、また、当日の看板を作成して校内に掲示した。

[5年]

- ・広報担当チームを作ってCM動画を製作し、校内で放送した。
- ・工作コーナーの手伝いをする児童は、事前に公民館主催の「作り方説明会」に参加した。
- ・当日、工作コーナーやジャンボ手巻き寿司のコーナーの手伝いの仕事のボランティア活動を行った。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

今回、子どもたちの参画を図った木田地区の行事は、全て木田公民館主催の行事であったので、子どもたちの活動前の職員との打ち合わせは、公民館主事と綿密に行うことができた。また、子どもたちが作成したチラシやポスター、発信した情報など、公民館主事に広報を依頼することで、木田地区民への周知が図れた。

子ども会育成連合会は、木田公民館まつりにフリーマーケットの模擬店を出す活動を以前から実施しており、今回の子どもたちの活動の経験となった。子ども会育成連合会長が直接子どもと関わったり、子どもたちからの支援要請に適切に対応することができた。また、青少年育成福井市民会議木田支部長は、三世代交流大会の担当者として、高砂会(老人会)や地区民ならびに学校とのコーディネートをする立場にあったので、企画時点での子どもたちの発案募集、子どもたちの情報発信、そしてPTAとの連携や大会当日の子どもたちへの支援などを行ってもらった。

(4) 特に工夫した事項

○今年度もそれぞれの行事の地域への広報活動に力を入れた。子どもたちが作成したポスターを校内や地区の掲示板に掲示した。児童にとっても広報活動をすることで、これまで木田地区で行われてきたイベントへの関心を高めることができた。

○保護者にも児童の活動を見てもらうために、行事への参加を呼びかけたり、活動の協力を依頼したりして、子どもたちの姿が見えるようにした。

○活動の内容や仕方を多様にするすることで、休日のイベントには参加できない児童でも、休みの時間の学校での活動に協力できるようにした。

(5) 成果と課題

例年通り、5、6年生は、生まれ育った木田地区を盛り上げていこうと、地区の行事の企画、運営に携わったり、実際に参加したりしてきた。地域連携を進め、このような体験を子どもたちにさせることは、たいへん有効であると感じた。また、地区にどう関わっていくかを考え実践する機会を与えることは、今後地域貢献のために何ができるかを考えさせることにつながったと思われる。今年度は特に、それらの行事がスムーズに行われるように、物理的な環境面を整えていった。来賓や保護者が座るためのパイプ椅子を購入し、アナウンスが明瞭になるようにマイクとスピーカーも購入した。さらに保護者が参加する際に迷惑駐車をなくそうと、カラーコーンも購入して協力を呼びかけた。

一方で、このような体験をさせるためには、校内での活動だけでなく、地域住民や公民館と連絡、調整をする必要がある。行事は全て週休日の実施であり、打ち合わせの時間もとりにくかったというのが現状である。

